

私が日本で学んだこと

URL : <https://youtu.be/H4oavw0H754>

今回は「私が日本で学んだこと」を学びながら、日本語を勉強しましょう。
この動画は、前半は少しゆっくりのスピードで、漢字には " ふりがな " があります。
後半は少しだけ速くなり、漢字に " ふりがな " はありません。
学習にお役立てください。

■私のこと

私の名前はワン・ヤーです。中国の上海で生まれました。今は二十八歳です。

日本の大学に一年間、交換留学生として行きました。日本語を学び始めたきっかけは、子どものころに見ていた推理アニメです。毎週のようにテレビで放送されていて、子どもの姿で大人のように推理を語る少年のセリフが大好きでした。アニメを見ているうちに「登場人物が話している日本語を、翻訳ではなく、そのまま理解してみたい」と思うようになりました。

大学では外国語を専攻しました。先生にすすめられて、日本への留学を決めました。最初は楽しみでしたが、少し不安もありました。日本語の授業では成績がよかったのですが、実際に日本人と話すとき、うまく言葉が出ないのではないかと思ったからです。それでも、「日本で本当の日本語を学びたい」という気持ちが強く、出発の日を心待ちにしていました。

日本に着いた日のことを、今でもよく覚えています。空港の案内がとてもわかりやすく、どこに行けばいいのかすぐにわかりました。電車の中はとても静かで、まわりの人が他の人の迷惑にならないようにしているのが印象的でした。外の景色を見ながら、「ここで新しい生活が始まるんだ」と胸が高鳴りました。

大学の寮に着くと、部屋は清潔で、どこも整っていました。中国とは少し違う整理整頓の文化を感じました。

スリッパをそろえることや、時間を守ることなど、すぐに日本人のまじめさを見ることができました。

そして何よりも、最初に会った日本人の学生がとてもやさしかったです。荷物を持ってくれたり、道を教えてくれたりしました。その笑顔を見たとき、「日本に来てよかった」と心から思いました。

■日本での生活

日本での生活が始まり、毎日が新しい発見の連続でした。コンビニに行くと、商品がとてもきれいに並んでいて、店員さんのあいさつもていねいでした。最初はレジ袋が有料だと知らずにびっくりしましたが、すぐに「環境を大切にす文化」だとわかりました。日本人たちは、少しのことでもきちんと理由を考えて行動しているように感じました。

電車に乗ると、車内はとても静かでした。ほとんどの人が話さず、本を読んだりスマートフォンを見たりしています。電話をしている人はいません。最初は少しさびしいと思いましたが、これは「まわりの人に迷惑をかけないため」とあとで知りました。その考え方が、とてもすばらしいと思いました。

生活の中でいちばん大変だったのは、ごみの分け方です。燃えるごみ、燃えないごみ、ペットボトル、紙、びん……。最初のころはよくまちがえてしまい、管理人さんにやさしく注意されました。

そんなとき、友人が「スマートフォンのアプリで分別がわかるよ」と教えてくれました。アプリに「ペットボトル」や「牛乳パック」と入力すると、出し方や回収の日がすぐに出てきます。そのおかげで迷うことが減り、分別を楽しむようになりました。

ある日、私は財布を落としてしまいました。中には現金と学生証が入っていました。すぐに駅に戻って駅員さんに相談すると、その場でほかの駅に連絡してくれました。少し待つと、「財布が見つかりましたよ」と教えてくれました。別の駅でひろわれていて、中のものもすべてそのままでした。そのとき、私はとても感動しました。知らない人が見つけて届けてくれたのです。

「日本には正直な人が多い」という話を聞いたことがありましたが、それ自分の目で確かめた瞬間でした。

■ クラスメイトとの出会い

大学^{だいがく}の授業^{じゅぎょう}が始^{はじ}まると、私^{わたし}はた^たく^くさ^さん^んの日本^{にほん}人^{じん}の学生^{がくせい}と出^{であ}会^{かい}い^いました。最初^{さいしよ}のころは、話^{はな}しか^かけ^けたい^{たい}い^いけ^けれ^れど勇^{ゆう}気^きがで^であ^あせ^せん^んで^でした。み^みん^んな^なと^とも^もま^まじ^じめ^めで^で静^{しず}かに^{かに}ノ^ノー^ート^トを^をと^とっ^って^てい^いて、授^{じゅ}業^{ぎょう}の^のあ^あと^とも^もす^すぐ^ぐに^にど^どこ^こか^かへ^へ行^いっ^って^てし^しま^まい^います。私^{わたし}は「どう^{どう}す^すれ^れば^ば友^{とも}だ^だち^ちに^にな^なれ^れる^るの^のだ^だら^らう^う」と^と思^{おも}っ^って^てい^いま^まし^した。

ある^{ある}日^ひ、同^{おな}じ^じ授^{じゅ}業^{ぎょう}を^を受^うけ^けて^てい^いた^た佐^さ藤^{とう}さん^{さん}が、私^{わたし}に^{こえ}声^{こえ}を^をか^かけ^けて^てく^くれ^れま^まし^した。「発^{はっ}表^{びょう}の^のグル^ぐー^ープ^ぷを^をい^いっ^っし^しょ^ょに^にや^やり^りま^ませ^せん^んか^か？」と^と言^いわ^われ^れた^たと^とき、と^とて^ても^もび^びっ^っくり^りし^しま^まし^した。私^{わたし}は^{ねが}うれ^{うれ}しく^くて、「お^お願^{ねが}い^いし^しま^ます^す」と^とす^すぐ^ぐに^に答^{こた}え^えま^まし^した。

その^{その}日^ひか^から、私^{わたし}は^{さとう}佐^さ藤^{とう}さん^{さん}と^とお^お昼^{ひる}の^の時^じ間^{かん}に^にい^いっ^っし^しょ^ょに^にラン^{らん}チ^ちを^をす^する^るよ^よう^うに^にな^なり^りま^まし^した。私^{わたし}は^{ちゅうごく}中^{ちゅう}国^{ごく}の^の料^{りょう}理^りの^の話^{はなし}を^をし^して、佐^さ藤^{とう}さん^{さん}は^{にほん}日^に本^{ぽん}の^の家^か庭^{てい}料^{りょう}理^りに^につ^つい^いて^て教^{おし}え^えて^てく^くれ^れま^まし^した。言^{こと}ば^ばが^が足^たり^りな^ない^いと^とき^きは、身^みぶ^ぶり^り手^てぶ^ぶり^りで^で伝^{つた}え^えま^まし^した。お^お互^{たが}い^いに^に笑^{わら}い^いな^なが^がら^ら話^{はな}す^すう^うち^ちに、少^{すこ}し^しず^ずつ^つ心^{こころ}の^の距^き離^りが^が近^{ちか}く^くな^なっ^って^てい^いき^きま^まし^した。

週^{しゅう}末^{まつ}に^には^はク^{かつ}ラ^{らう}ブ^ぶ活^{かつ}動^{どう}に^にも^もさ^さそ^そっ^って^ても^もら^らい^いま^まし^した。私^{わたし}は^{しゃしん}写^{しゃ}真^{しん}ク^くラ^らブ^ぶに^に入^{はい}り、は^はじ^じめ^めて^て桜^{さくら}の^の写^{しゃ}真^{しん}を^を撮^とり^りま^まし^した。日^に本^{ぽん}人^{じん}の^の学^{がく}生^{せい}は、「花^{はな}の^の命^{いのち}は^は短^{みじ}い^いけ^けど、美^{うつく}しい^い時^じ間^{かん}を^をたい^{たい}せ^せつ^つに^にす^する^る」と^と言^いっ^って^てい^いま^まし^した。その^{その}言^{こと}ば^ばを^を聞^きい^いて、日^に本^{ぽん}人^{じん}の^の「今^{いま}を^を大^{たい}切^{せつ}に^にす^する^る」^{きもち}気^し持^しち^ちを^を知^しり^りま^まし^した。

そ^そし^して、私^{わたし}は^き気^きづ^づき^きま^まし^した。日^に本^{ぽん}の^の人^{ひと}は^{おお}あ^あま^まり^り多^{はな}く^く話^{はな}さ^さな^なく^くても、相^あ手^ての^のこ^こと^とを^を思^{おも}い^いや^やる^る気^{きもち}持^{もち}ち^ちが^があ^ある^ると^とい^いう^うこ^こと^とです。話^{はな}す^すよ^より^りも、相^あ手^ての^の様^{よう}子^すを^を見^みる^るこ^こと^とを^を大^{たい}切^{せつ}に^にし^して^てい^いま^ます。こ^これ^れは^{わたし}私^{わたし}の^の国^{くに}に^には^はあ^あま^まり^りな^ない^い文^{ぶん}化^かで^でし^した^たが、と^とて^ても^もす^すて^てき^きだ^だと^と思^{おも}い^いま^まし^した。

■ 文化の違いに悩んだ日

日^に本^{ぽん}で^での^の生^{せい}活^{かつ}に^に少^{すこ}し^しな^なれ^れて^てき^きた^たこ^ころ、私^{わたし}は^{ぶんか}文^{ぶん}化^かの^の違^{ちが}い^いに^にと^とま^まど^どう^うこ^こと^とが^がふ^ふえ^えて^てい^いき^きま^まし^した。授^{じゅ}業^{ぎょう}で^で意^い見^{けん}を^を言^いう^う時^じ間^{かん}が^があ^あり^りま^まし^した^たが、日^に本^{ぽん}の^の学^{がく}生^{せい}は^はな^なか^かな^なか^か自^じ分^{ぶん}の^の意^い見^{けん}を^を言^いい^いま^ませ^せん。私^{わたし}は^{はな}す^すぐ^ぐに^に手^てを^をあ^あげ^げて^て話^{はな}し^しま^まし^した^たが、ま^まわ^わり^りの^の人^{ひと}は^{しず}静^{しず}かに^{かに}聞^きい^いて^てい^いる^るだ^だけ^けで^でし^した。

あ^あと^とで^で友^{ゆう}人^{じん}に^に聞^きく^くと、日^に本^{ぽん}で^では^は「相^あ手^ての^の気^{きもち}持^{もち}ち^ちを^を考^{かんが}え^えな^なが^がら^ら話^{はな}す^すこ^こと^と」が^が大^{たい}切^{せつ}だ^だと^と教^{おし}え^えて^てく^くれ^れま^まし^した。自^じ分^{ぶん}の^の考^{かんが}え^えを^を言^いう^う前^{まえ}に、み^みん^んな^なが^がど^どう^う思^{おも}っ^って^てい^いる^るか^かを^を見^みて^てか^から^ら話^{はな}す^すそ^そう^うです。

わたしはそれを聞いて、「^き空気^{くうき}を^よ読む」という^{にほんご}日本語の意味をはじめて^{いみ}理解^{りかい}しました。でも、それを^{じっさい}実際にするのはとてもむずかしかったです。

あるとき、グループの話し合^{はな}いで、^あ私の意見^{わたくし いけん}がうまく^{つた}伝わらず、^うみんなに受け入れてもらえないことがありました。私は自分の考えをはっきり言うことが大切だと思^{おも}っていたので、「^{ちゅうごく}どうして^い伝わらないの^{まえ}だろう」と^{かんが}気持ちが重^{おも}くなりました。中国では、はっきり意見^{いけん}を言うことは^{まへ}前向きな^むことだと考えられています。しかし、日本では、^{にほん}相手が^{あいて}どんな^{きも}気持ちかを^{かんが}考えながら、^{ことば}言葉の強^{つよ}さや^{じゅんばん}順番を^{ぶんか}ていねいに^{ぶんか}する文化があります。

そこで私は、「^{みなさんはどう思いますか？}」と^き聞くようにしてみました。自分の考えを言うときも、^{すこ}少しだけやわらかい^い言い方^{かた}に変え^かました。すると、まわりの人が話しやすい^{ふんいき}雰囲気になり、私の意見^{わたくし いけん}にも自然に^{しぜん}反応^{はんのう}してくれるようになりました。

この経験^{けいけん}から、私は「^い言^{おな}いたいことが^{くに}同じでも、^{つた}国が^{かた}ちがうと^か伝え方も^{あいて}変わる」という大切なことを^{まな}学びました。中国では^{ちゅうごく}ストレートな^{ひょうげん}表現、日本では^{にほん}相手の^{あいて}気持ちに^{きも}合わせた^あ表現。どちらも^{ひょうげん}間違いではなく、^{ぶんか}文化がつくった^{しぜん}自然な^{ちが}違いだと気づきました。

■アルバイトで^{かん}感じた^{せいちょう}成長

^{りゅうがくちゅう}留学中、私は^{わたし}近く^{ちか}の^{てん}ラーメン店^{はじ}でアルバイトを^{にほんご}始めました。日本語を^{つか}使う^{きかい}機会を^{おも}ふやしたいと思^{おも}ったからです。最初のころは、^{さいしょ}店の中^{みせ}の^{なか}言葉^{ことば}や^{うご}動きが^いとても速く、^{はや}ついていくのが^{たいへん}大変でした。「^{すこ}いらっしゃいませ！」と^は元気に言うことも、はじめは少し^は恥ずかしかったです。

^{いちばんさいしょ}一番最初に^{しっぱい}失敗したのは、^{きやく}お客さんにお水^{みず}を出し^だ忘れたことでした。^{わす}注文をとることばかりに^き気を取られていて、私は^{わたし}あわてて「^{すみません！}」と^{みず}お水を^も持っていました。すると、そのお客さんは^{きやく}笑って「^き気にしないでね。がんばってね」と^い言ってくれました。その一言^{ひとこと}がとてもあたたかくて、^{なみだ}涙が^で出そうになりました。

^{しごと}仕事を^{つづ}続けるうちに、私は^{わたし}少しずつ^{すこ}自信^{じしん}を持てるようになりました。^も注文を聞くときは^{きやく}お客さんの^め目を見て、^き聞き返すときも^{かえ}ていねいに^{はな}話すようにしました。^{はこ}ラーメンを^{はこ}運ぶときは、^{あつ}どんぶりが^{あつ}熱いので^き気をつけながら、^{えがお}笑顔で「^まお待たせしました」と^い言うようにしました。

ある日、よく来る常連のお客さんが、「君の声を聞くと元気が出るよ」と言ってくれました。その言葉を聞いたとき、私は自分の仕事はだれかの一日を明るくできると気づきました。お金をもらうためだけに働くのではなく、人に喜んでももらうことも大事なのだと気づきました。

夜の営業が終わると、みんなでいっしょに床をはいたり、どんぶりを洗ったりしました。つかれた顔をしながらも、だれも文句を言いません。最後まできちんとやるのが、日本の「責任を持つ」という考え方なのだと学びました。

ラーメン店でのアルバイトは、日本語の勉強だけでなく、人としての成長の間でもありました。まちがえても、まじめに続ければ、かならず見ていてくれる人がいる。私は日本で、そのことを実感しました。

■日本の行事と人のつながり

日本での生活に少しなれてきたころ、私はたくさんの行事に参加するようになりました。春には友人たちとお花見に行きました。公園の桜は空いっぱいに広がっていて、まるでピンクの雲のようでした。レジャーシートの上にすわって、おにぎりやお弁当を食べながら笑い合いました。私は花を見るだけでなく、「一緒に過ごす時間を楽しむ」ことが日本のお花見なのだと知りました。

夏には、町の夏祭りに行きました。ゆかたを着た人がたくさんいて、屋台の食べもののにおいが広がっていました。金魚すくいに挑戦しましたが、すぐに紙が破れてしまい、うまく取れませんでした。すると、近くの子どもが「こうやってゆっくりするといいよ」と教えてくれました。

冬には友人の家で年越しをしました。年末の夜、家族みんなでそばを食べ、「今年もありがとう」と言い合っていました。その姿を見て、日本では「一年の終わりを感謝でしめくくる」ことが大切なのだと感じました。新しい年の朝には、神社に初もうでにも行きました。人が多くて寒かったけれど、手を合わせると心がずっと落ち着きました。

また、正月に友人の家で「おせち料理」をごちそうになりました。黒豆やだてまき、えびなど、それぞれに意味があることを教えてもらいました。日本の料理には、家族のしあわせを願う気持ちがこめられていることを知り、心が温かくなりました。

わたしはそのとき、「違う国の人どうしても、気持ちを通じる」と感じました。言葉が少しわからなくても、いっしょに笑ったり、同じ景色を見たりすることで、心はつながるのだと思いました。日本の行事をとおして、人と人のつながりの大切さを学びました。

■日本を離れる前に感じたこと

留学の最後の学期が始まるころ、私は毎日のように「あと少しで日本を離れる」と考えるようになりました。大学のキャンパスの木々が色づき、風が冷たくなっていくのを感じながら、一日一日を大切に過ごしました。授業のあとに友人たちと話す時間や、駅までいっしょに歩く帰り道さえも、特別な時間に思えました。

ある日、先生が授業の最後に「一年間、よくがんばりましたね」と言ってくれました。その言葉を聞いたとき、胸がいっぱいになりました。日本語がうまく話せなくて泣いた日も、文化のちがいに悩んだ日もありましたが、そのすべてが今の私を作っていると思いました。失敗も成功も、どちらも大切な経験でした。

別れの日が近づくと、友人たちが送別会を開いてくれました。部屋には色とりどりの折り紙で作ったかざりがあり、手作りの料理が並んでいました。佐藤さんが手紙を読みながら「出会えてよかった」と言ってくれました。私は涙をこらえられませんでした。日本に来たばかりのころは、こんなに多くの人と心がつながるとは思っていませんでした。

帰国の前日、私はひとりで近くの神社に行きました。小さな鈴の音を聞きながら、「日本に来て本当によかった」と心の中でつぶやきました。神社の境内にいた小学生が、私に「こんにちは」と笑顔であいさつしてくれました。その何気ない言葉が、とてもあたたかく感じられました。

日本で過ごした一年は、ただ勉強をした時間ではありませんでした。人との出会いを通して、自分の心が少しずつ変わっていくのを感じました。日本で学んだことは、言葉や知識だけではありません。「人を思いやる気持ち」や「ありがとうと言える勇気」こそ、私がここで得た一番の宝物でした。

■ 帰国後の生活

中国に帰る飛行機の中で、私は窓の外の雲を見ながら、日本で過ごした日々を思い出していました。

はじめは不安と緊張でいっぱいでしたが、今ではその一年が私の人生の中でいちばん大切な時間になりました。日本で出会った人たちのやさしさや、ことばの温かさを思い出すと、胸の奥がじんと熱くなります。

帰国してから、私は日本で学んだことを自分の国でも生かしたいと思うようになりました。今は日本語教室のアシスタントとして働いています。教室では、日本語を学ぶ学生の会話練習を手伝ったり、発音を聞いたりしています。学生が「わかった！」と笑顔を見せてくれると、日本で先生や友人に助けてもらった日のことを思い出します。私は、あのときのうれしさを今は人に伝える立場になったのです。

日本で学んだ「思いやり」は、ことばをこえて心に残っています。たとえば、駅で迷っている人に声をかけるときや、仕事でだれかが困っているとき、私は自然に手をさしのべるようになりました。それは日本で出会った人たちの姿を見て覚えたことです。

これからの夢は、日本と中国をつなぐ仕事をする事です。言葉のちがいがあっても、おたがいを理解し合える社会を作りたいと思っています。日本での経験は、私に自信をくれました。日本で出会った人たち、見た景色、聞いたことば、すべてが私の中で生きています。これからもその思いを胸に、新しい道を歩いていきたいと思います。

「私が日本で学んだこと」はいかがでしたか。
コメント欄から感想をみんなに教えてください。

それでは、また別の動画でお会いしましょう。

